

## 『釧路湿原および周辺の地層』

### 『釧路湿原および周辺の地層』についてのトピック

(解説：釧路市立博物館)

- 釧路湿原の地形は、南部（釧路市街地・太平洋方面）では東に、北部（鶴居・標茶方面）では南へそれぞれゆるやかに傾いています。全体として西から東・南東に向かって低くなっています。湿原に何本もの支流（ホロロ川・セツリ川・クチョロ川・ヌマホロ川など）を持つ釧路川は、一番低い湿原の東縁を台地に沿って南下し、太平洋にそそいでいます。釧路川の左岸には、台地にくいこむように海跡湖のシラルト湖・塘路湖・達古武湖があります。
  
- 湿原の地質は、表面に泥炭をのせている第四紀の沖積層です。沖積層は湿原を直接作っている地層です。深さは、およそ20～40メートルで、湿原の南部や臨海地では深くなり50メートル以上最深で80メートル位あります。最上部の泥炭は、湿原の中央から北部にかけて3～4メートルで、全体で見ると1～4メートルの範囲です。
  
- 湿原の形成は、およそ2万年前のビュルム氷期末期からはじまったと言われています。当時は現在に比べて平均気温が10度近くも低く、海面は100メートル近く低下していた時代です。この氷期も徐々に衰退し暖かくなると海水が内陸に進入し、やがて6,000年前頃には、「古釧路湾」が形成されました。

○釧路地方の地質層序表

1 万年	第四紀	沖積世	沖積層	
		洪積世	屈斜路軽石流堆積物	
大楽毛層				
阿寒火山古期噴出物				
釧路層群				
200 万年 520 万年	新第三紀	鮮新世	阿寒層群	
		中新世	厚内層群	
2500 万年	古第三紀		音別層群	縫別層
		茶路層		
		大曲層		
		浦幌層群	尺別層	
			舌辛層	
			双連層	
			雄別層	
			天寧層	
			春採層	
			別保層	
6500 万年	白亜紀	根室層群		